「能登半島地震」被災地支援の募金活動
小中学生が被災地復興に願い込める

２月７日、町内小中学校の児童生徒が、町内４カ所で能登半島地震への被災地支援のため募金活動を行いました。これは、山田中学校生徒会からの呼びかけで、東日本大震災での支援に恩返しをしたいという思いから行われたもので、町内各校の小中学生57人が参加。能登半島を描いたポスターや応援メッセージの寄せ書きを手に懸命な呼びかけを行い、総額545,793円の募金が集まりました。鈴木拓さん（山田中２年）は「一日でも早く、元通りの生活が送れるようになってほしい」と強く願いを込めました。

【写真提供：八戸工業大学大学院】

当町出身の堀合さん（八戸工業大学院生）が防災出前授業
避難時、早期行動の重要性訴える

２月７日、八戸工業大学が山田中学校（八幡一臣校長、生徒297人）の２年生99人を対象に防災授業を行いました。講師を務めたのは当町出身の堀合紳弥さん。災害時の避難行動を研究する博士課程の大学院生として、自身の経験や知識を生かし、東日本大震災や台風19号豪雨など災害のメカニズムをスライドや模型で説明。避難情報に基づく早期行動の重要性を訴えました。参加した勝山陽真璃さんは「災害が怖いものだと再認識しました。災害時は、必ず放送を聞きすぐに避難します」と話していました。

「やまだわんぴぃす」イベントに350人
カフェで地域交流の場賑わう

地域コミュニティの復興を目的としている市民団体の「やまだわんぴぃす」が１月27日、町まちなか交流センターで「リアスカフェ」を開きました。このカフェは、軽食が無料で楽しめるほか、小久慈焼も体験できるとあって大盛況。運営は山田高校の生徒５人が主体となり、来場した約350人をもてなしました。そのほか生徒らは、事前学習で取り組んでいた「飼い主のいないネコ」の問題を解決する方法をクイズ形式で来場者に出題。「人とネコが共生できる地域を目指しましょう」と強く訴えていました。

「第２回山田町Ｂ＆Ｇなわとび大会」
団体・個人で記録を競い合う

１月21日、町B&G海洋センター主催の「第２回山田町Ｂ＆Ｇなわとび大会」が同体育館で開かれました。大会には町内のスポーツ少年団など８団体・約70人が参加。「大縄跳び」と「縄跳び記録会」の２部に分かれ、団体、個人で記録を競い合いました。跳んだ人数と回数で競う大縄跳びの部では、息を合わせ慎重に跳ぶ子どもらの姿が見られ、周囲からは声援や拍手が送られていました。参加した佐藤然さん（山田小６年）は「大縄跳びで負けて悔しかったので次こそは勝ちたいです」と闘志を燃やしていました。

町のわだい

今月の題字　川端　晄士（こうし）さん（山田小６年）

「人づくり町づくり町民のつどい」に650人
第69代横綱白鵬の宮城野翔さんが講演

２月18日、町教委主催の「人づくり町づくり町民のつどい」が町中央公民館で開かれ、町民約650人が来場しました。講師を務めたのは、第69代横綱の宮城野翔（しょう）さんで「幸せをつかむ夢の叶え方」と題して講演。宮城野さんは相撲との出会いから横綱へ昇進、そして引退するまでのエピソードを紹介した上で、「形を持って形にこだわらないことが大切。頭で考えて心で描いていけば必ず夢は叶うものだと信じています」と強調しました。最後には、宮城野さんから抽選で引退記念写真集や手形色紙などがプレゼントされ、来場者らは楽しい時間を過ごしていました。

キッズミュージカル公演に観客360人
子どもらの熱演に満場の拍手

１月21日、キッズミュージカル「ライオンの王子シンバとカイト」の公演が町中央公民館大ホールで行われました。これは、沿岸部の芸術文化活動の支援を目的に特定非営利活動法人劇団ゆうが開催したものです。東日本大震災後から続けている本公演には、本町の小中学生38人が共演。子どもらは１カ月前から稽古に励み、本番では同劇団のメンバーらとともに歌と踊りを披露しました。会場には子どもらの姿を一目見ようと約360人の観客が訪れ、緊張した表情を見せながらも懸命に役になりきる子どもらの姿に満場の拍手を送っていました。

山田高３年生の「高校生議会」
各テーマごとに熱い議論交わす

山田高校（伊東理俊（まさとし）校長、生徒69人）の３年生27人による「ふるさと探究高校生議会」が、１月19日、町役場議場で開かれました。これは、同校の「ふるさと探究」授業の一環で行われたもので、生徒らは福祉や子育て、観光、都市計画、防災のテーマごとに取り組んだ校外調査の結果などを踏まえ、町議会と同じ形式で「一般質問」。質問席からは、「スマートフォン用のＬＩＮＥアプリを用いた情報発信を」「災害時、観光客向けの避難経路が書かれたＱＲコード付きの看板を設置しては」などと、町長はじめ、町幹部職員を相手に熱い議論を交わしました。